



# ホスピス財団 ニュース

Japan Hospice Palliative Care Foundation News

VOL.39 2020/10

(公財)日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団

〒530-0013 大阪市北区茶屋町2-30

TEL.06-6375-7255

FAX.06-6375-7245

E-mail: hospat@gol.com

URL: https://www.hospat.org/



## 写真で辿る、ホスピス財団20年の歩み

“最期まで自分らしく安らかに”をモットーに掲げて、ホスピス・緩和ケアの質の向上を目指して20年間歩んで参りました。これからも皆様に支えられ、歩み続けたく願っております。



設立記念講演会 (2001.4)

2001年



国際シンポジウム (2001.10 大阪)



2003



アジア太平洋ホスピス会議 (2003.3 大阪)



2004



柏木理事長 保健文化賞  
受賞 (2004.9)

2006



シシリー・ソンドース  
追悼記念講演会 (2006.2)



2009



ホスピス・緩和ケアフォーラムin徳島 (2010.6)



2010

2011



カーニー夫妻  
特別講演会 (2011.10)



ヘレン&ダグラスハウス  
交流セミナー (2009.5&9)

2014



ハッチンソン先生講演会 (2014.6)



2016



柏木理事長 ヘルシー  
ソサエティ賞受賞 (2016.3)



WPCワークショップ  
(2017.8; 2012開講)

2017

2018

2019



ホスピス・緩和ケアフォーラム  
in大分 (2019.2)



ホスピス財団  
第1回国際セミナー  
(2018.4)

# 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究4 (J-HOPE4)

本研究はJ-HOPEの4回目として実施された全国的な遺族調査です。

日本ホスピス緩和ケア協会会員である緩和ケア病棟(PCU) 187施設、一般病院14施設\*1在宅ケア施設14施設を対象施設として、遺族に調査票を送付してまとめられたものです。17,147人の遺族に送付し、9,071人から回答を得ており(53%)、世界的にも屈指の大規模な調査です。

報告書は主研究と付帯研究の2部構成で、主研究では、遺族から見たケアの構造・プロセス・アウトカム(結果)の評価を明らかにする目的と、遺族の悲嘆、抑うつに関する調査研究がなされました。また付帯研究では、終末期医療に関する幅広い調査研究がなされ、前

回の26テーマを大幅に上回る50テーマの調査研究が行われました。さらに特徴的な点として、EASED\*2研究との連結により緩和ケア病棟で行われている医療の実態と、それらの遺族による終末期医療の質の評価との関連性が明らかにされました。



\*1 緩和ケアチームを有する一般病院

\*2 East-Asian collaborative Study to Elucidate the Dying process (日本、韓国、台湾の緩和ケア病棟に入院した終末期にある患者の死亡直前期の医学的過程と終末期医療の実態を明らかにした研究)

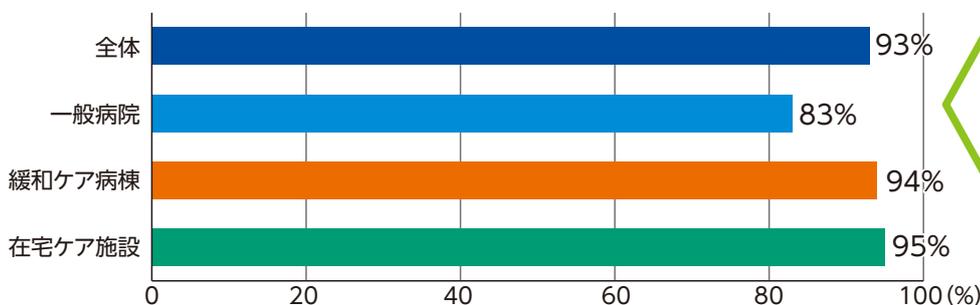
## 結果の一部を紹介します

J-HOPE4の全ページはホスピス財団ホームページで閲覧可能です



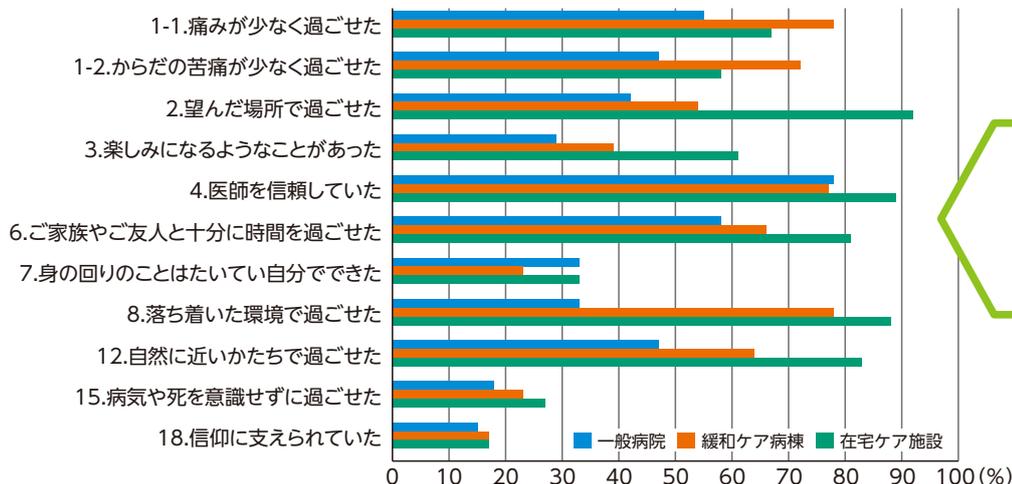
### ケアに対する全体的満足度

(数字の%は「非常に満足」「満足」「やや満足」の合計)



ケアに対する全般的満足度は、前回調査とほぼ同等の高い評価が得られた。

### 望ましい死の達成度の評価 (抄)



望ましい死の達成度に関しては、項目・施設によって肯定的な評価の割合が異なっていた。

## 近刊紹介



## 柏木哲夫と ホスピスのこころ

前野宏氏  
編集協力

## シシリー・ソングースと ホスピスのこころ

小森康永著（愛知県がんセンター精神腫瘍科部長）



いずれも春陽堂書店 2020年6月発行 2000円＋税

この2冊は、編集協力者である札幌南徳洲会病院総長の前野 宏氏が2018年にNPO法人「ホスピスのこころ研究所」を設立し、その記念として6回におよぶ講演会が開催され、それが書籍化されたものである。

■『柏木哲夫とホスピスのこころ』は、柏木氏がホスピスの母、近代ホスピスの創始者と言われるシシリー・ソングース女史との出会い、女史から与えられたことば、そして自身の長年に亘るホスピス経験から、三つのキーワード「寄りそうこと」、「人間力」、「ことば」をテーマに、ホスピスケアの本質を、多くの事例と共に、ユーモアを交えつつ分かりやすく語られている。また、ややもすれば忘れられがちな、医療におけるArtの領域が「ホスピス精神」の重要な要素であることを再認識させられる好著である。

■『シシリー・ソングースとホスピスのこころ』では、ソングース女史の論文を日本で初めて翻訳出版された小森氏が、柏木氏の3回の講演をたどりつつ、その三つキーワードを、女史ならどう語るかを、彼女の多くの論文から考察し、柏木氏の講演を掘り下げられている興味深い内容である。編集者の前野氏が、まえがきで、「改めて気づくのは、シシリー・ソングースのことばの深さである。」と評されているが、ホスピス・緩和ケアに従事する方々に、ケアの真髄を与える書として一読を薦めたい。

いずれの書も、医療従事者だけでなく、ホスピスに関心のある一般の人々にも、ケアとは何かを、今一度考えるための導き手となる書として薦めたい。

## お知らせコーナー

## ●好評発売中

『Whole Person Care実践編；  
AI時代に心を調べ、心を開き、  
心を込める』

Tom A.Hutchinson著、恒藤 暁訳  
発売：三輪書店/A5判 212p  
2000円＋税



## ●2021年度 調査・研究助成金、募集中

募集要領はホームページをご覧ください。

●ホスピス・緩和ケアフォーラム2021  
協力医療機関 募集中

募集要領はホームページをご覧ください。

●第1回日本Whole Person Care研究会  
(Zoomによるオンライン)が  
8月1日に開催されました。

- ・テーマ：「Whole Person Careのために明日から私たちができること：新しい医療と医療者教育」
- ・講演：「Whole Person Careのために明日からできること」  
土屋静馬氏  
(昭和大学・医学教育学講座/内科)

★研究会の内容は、ホスピス財団ホームページで公開されています。

## ●溝淵雅幸監督

いのちに寄り添うシリーズの  
三作目「結びの島」が上映されます。  
詳細はホームページをご覧ください。



## こんにちは ホスピス

## 医療法人松籟会 河畔病院緩和ケア病棟の紹介

河畔病院緩和ケア部長 前里 喜一



鏡山を望みながらの花見会

当病棟は、2001年4月に佐賀県で二番目に開設された院内病棟型緩和ケア病棟です。

開設は14床よりスタート。当初は、患者さんが終の棲家として入院を希望される方がほとんどでした。そんな中でも、少しずつ地域の方々へ緩和ケアに対する理解が深まり、当院への入院希望が増えつつあって、2009年6月にベッド数を4

床増やして現在18床で運営しています。これまで沢山の患者さんとの出会いと別れを繰り返しながらホスピス緩和ケアの知識を深め経験を重ねながら学びを経てきました。おかげさまで来年度は開設20周年を迎えることとなります。



家族会でのバルーンリリース

当病棟は、唐津市内にある鏡山を展望でき自然豊かな環境にあります。

病院前には、JR東唐津駅が隣接し利便性が良く遠方からご家族の面会がスムーズにできます。

近年、当院の緩和ケア病棟も看取りの場だけでなく住み慣れた場所へ退院される患者さんが増え、多職種と連携しながら退院支援をおこなっています。しかし佐賀県北部は、過疎化地域や島々が沢山あり、ようやく在宅診療が充実しつつありますが今後の課題もあります。在宅診療が充実しているとはまだまだいえない状況で今後の課題でもあります。私達は、緩和ケア病棟の役割が変化する中でも、病棟理念「癒やしあい分かち合いながら愛をもって寄り添う」を心して、今後も精進してまいります。

## ホスピス財団 2020年度 事業進捗状況報告

1. ホスピス・緩和ケアに関する調査研究事業（公募）…進行中
2. 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する調査研究事業（第5次調査・1年目）…進行中
3. 『ホスピス・緩和ケア白書 2021』…進行中
4. 救急・集中治療における緩和ケアの推進…進行中
5. ホスピス・緩和ケアボランティア研修セミナー開催事業  
新型コロナウイルスのため中止
6. Whole Person Careワークショップ開催事業： 同上
7. 『MD Aware：A Mindful Medical Practice Course Guide』翻訳事業…進行中
8. 「ともいき京都」におけるがん体験者・市民主体のプログラム創生事業…WEBを活用して進行中
9. 緩和ケア・支持療法領域に関わる医療従事者を対象とした意思決定支援に関する研修セミナーの開催…開催検討中
10. ホスピス・緩和ケアフォーラム開催事業：新型コロナウイルスのため中止
11. 一般広報活動事業
12. 『これからのとき』『旅立ちのとき』冊子増刷
13. ホスピス財団20周年記念講演会：新型コロナウイルスのため中止
14. International Congress on Palliative Care学会参加
15. ホスピス財団 第4回 国際セミナー開催事業：新型コロナウイルスのため延期
16. APHN関連事業
17. 日本・韓国・台湾・香港・シンガポール 第3期共同研究事業（3年計画の2年目）…進行中

## ホスピス財団 2019年度(第20期) 決算の概要

2019年4月1日から2020年3月31日まで (単位：千円)

科 目	2019年度決算
<b>【経常収益】</b>	
①基本財産運用益	15,388
②受取寄付金	25,601
(内訳) 賛助会費収入	20,325
一般寄付金収入	276
指定寄付金収入	5,000
③雑収益等	1,768
<b>経常収益計 (A)</b>	<b>42,757</b>
<b>【経常費用】</b>	
①事業運営費	37,837
(内訳) ホスピス・緩和ケアに関する調査・研究事業	12,400
ホスピス・緩和ケア従事者に関する教育事業	11,989
ホスピス・緩和ケアに関する広報事業	6,201
ホスピス・緩和ケアに関する国際交流事業	7,247
②一般管理費	6,048
<b>経常費用計 (B)</b>	<b>43,885</b>
<b>当期経常増減額 (A - B)</b>	<b>▲1,128</b>

### 寄付者一覧

(2020年3月～2020年8月 順不同、敬称略)  
(個人) 竹下 淳也 野上 言愛

### 新規賛助会員

(2020年3月～2020年8月 順不同、敬称略)  
(個人) 神谷 浩平

### 寄付・賛助会員のお願い

私たちの活動は、全て、皆さまからのご寄付と賛助会員の方々の会費に拠っております。どうか私どもの活動の趣旨をご理解いただき、ご寄付・賛助会員のお申し込みを頂けるようお願いいたします。

**(税額控除の対象になります)**

また、「遺贈」による寄付もぜひご一考下さい。当財団は、三井住友信託銀行と「遺贈による寄付制度」について提携しております。公益法人への遺贈に拠る寄付財産は、原則として**相続税の非課税財産**となります。

上記ご寄付、賛助会員、遺贈に関するお問い合わせは

**06-6375-7255** です。

### 編集後記

ホスピス財団設立20周年の記念すべき年ではあるが、Covid19や水害に見舞われるという多難な年になった。ホスピス・緩和ケアの領域においても、様々な面でCovid19による弊害が生じていると聞いている。特にソーシャルディスタンスという制約から、医療者やご家族と患者さんとの交流がままならないことは、本当に辛いことだと察せられる。しかし、多くの団体で、WEBによる学会や、研究会などが開催できていることは、関係者の知恵と工夫の成果であり、困難な環境の中での新しい方向が示されたと思われる。同様にホスピス・緩和ケア病棟においても、医療従事者が工夫を凝らされ、人々との関係性を大切に努力を続けられていることを信ずる者である。Covid19がつづく中、忍耐を持ちつつ、終息する日を待ち望みたい。

『待つ者もまた勤める者である。』

ジョン・ミルトン

(編集子)